

2024年6月23日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第67巻第13号(通算3395号)  
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう

# 週報

教会標語

小さくされている人を  
大切に<sup>たいせつ</sup>する<sup>きょうかい</sup>教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

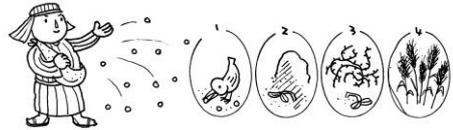
<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に<sup>たいせつ</sup>にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマの人々への手紙5:5)

## せいれいこうりんせつ 聖霊降臨節

### だい しゅじつれいはい 第6主日礼拝



《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜんそう もくとう  
前奏(黙祷)

ちよさくけんしょうめつ  
AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば  
招きの詞

しへん  
詩編

へん せつ  
126編 5-6節

さんびか  
賛美歌

ばん しゅ めぐ  
21-388番「主の恵みゆたかなり」(©日本キリスト教団出版局)

せいしよ  
聖書

ふくいんしよ  
ヨハネによる福音書

しょう せつ  
4章 27-42節

いの  
お祈り

さんびか  
賛美歌

ばん うで  
21-413番「キリストの腕は」(©JASRAC)

メッセージ

たねま さき か い さき  
「種蒔きが先か、刈り入れが先か」

うしだ ただし ぼくし  
牛田 匡 牧師

さんびか  
賛美歌

ばん しゅ き しゆく  
21-90番「主よ、来たり、祝したまえ」(©JASRAC)

しゅいの  
主の祈り

ばん てん ちち きょうだんさんびかかいていいんかい  
62番「天にいます わたしたちの父」(©教団讃美歌改訂委員会)

ささげもの  
献げ物(\*)

はけん  
派遣

ばん かみ めぐ う せつ  
21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゆくふく  
祝福

うしだ ただし ぼくし  
牛田 匡 牧師

こうそう  
後奏

ばん きょうだんさんびかいいんかい  
アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讃美歌委員会)

ほうこく  
報告

ページ さんしょう  
(4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\*受付に献金箱がございます。

「献げ物(献金)」はご用意のある方のみ、お献げください。

5 涙と共に種を蒔く人は

喜びの歌と共に刈り入れる。

6 種の袋を背負い、泣きながら出て行く人も

穂の束を背負い、喜びの歌と共に帰って来る。



聖書 ヨハネによる福音書 4章 27-42 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

27 その時、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話をしておられるのに驚いた。しかし、「何を求めですか」とか、「何をこの人と話しておられるのですか」と言う者はいなかった。28 女は、水がめをそこに置いて町に行き、人々に言った。29 「さあ、見に来てください。私のしたことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれません。」30 人々は町を出て、イエスのもとへ向かった。

31 その間に、弟子たちが「先生、召し上がってください」と勧めると、32 イエスは、「私には、あなたがたの知らない食べ物がある」と言われた。33 弟子たちは、「誰かが食べ物を持って来たのだろうか」と互いに言った。34 イエスは言われた。「私の食べ物とは、私をお遣わしになった方の御心みこころを行い、その業わざを成し遂げることである。35-36 あなたがたは、『刈り入れまでまだ四か月ある』と言っているではないか。しかし、私は言うておく。目を上げて畑を見るがよい。<sup>a</sup>すでに色づいて刈り入れを待っている。刈り入れる人は報酬を受け、永遠の命に至る実を集めている。こうして、蒔く人も刈る人も共に喜ぶのである。37 『一人が蒔き、一人が刈り入れる』ということわざのとおりになる。38 私は、あなたがたを遣わして、あなたがたが自分で労苦しなかったものを刈り取らせた。ほかの人々が労苦し、あなたがたはその労苦の実にあずかっている。」

39 さて、町の多くのサマリア人は、「あの方は、私のしたことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。40 そこで、サマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところに滞在してくださるようお願いした。イエスは、二日間そこに滞在された。41 そして、さらに多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。42 彼らは女に言った。「私たちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからである。」

(脚注 a：別訳「色づいて刈り入れを待っている。すでに、刈り入れる人は」)

## 《先週のメッセージより》6月16日

「幸せなら手をたたこう」より

牛田匡牧師

聖書 ミカ書 4章 1-7節

皆さんにお馴染みの「幸せなら手をたたこう」という歌が、いつ、誰によって作られたかをご存知の方は、どれくらいおられるでしょうか。この歌は、1934年生まれの木村利人さんが、大学生の時に作られた歌なのだそうです（『漫画 幸せなら手をたたこう誕生物語』（西岡由香著・いのちのことば社））。彼は1959年の夏に国際ワークキャンプで滞在したフィリピンで、日本人が歓迎されない背景に、戦争中に日本軍が行った残虐な行為があることを初めて知り、その罪責感に悩みながらも、「手を打ち鳴らし、喜びの声を上げ、神に向かって叫べ」（詩47:2）という聖書の言葉と出会い、フィリピンの方々に対する謝罪の思いを、心の中で思っているだけではなく、自分の態度、行動で実際に示して行かなければ伝わらないということに気が付いたのだそうです。それからの彼の人一倍の働きを見て、現地の人たちからも赦され、やがて受け入れられるように変わっていったのだそうです。その体験に基づき、この「幸せなら手をたたこう」という歌は、当時のフィリピンの子どもたちが遊びながら歌っていた曲に、木村さんが歌詞をつけ、全ての人が赦し合い、共に生きることができるということを歌にしました。そして5年後の1964年には、口づてに拡がっていたこの歌を気に入った歌手の坂本九さんが、この歌を作者不明のままレコードとして発売し、全国に拡がったのだそうです。

今回の聖書の言葉「剣を鋤に／槍を鎌に打ち直す」は、国連本部の前の碑にも刻まれている程に、世界の平和を象徴する有名な言葉です。しかし、預言者によってこれらの言葉が語られた当時の実際は、国内では内乱、外国からは攻められるという崩壊寸前の社会情勢でした。いつ襲われるかもしれないから、戦いに備えよと言われ、とても安心などしてられない。弱い人々は次々と見限られ、見放されて行く……。そのような現実があったからこそ、預言者は世界の平和が完成される希望を語りました。たとえ、非現実的、絵空事と言われたとしても、人と人とは対立し、憎しみ合うだけではなく、過去の過ちを越えて赦し合い、共に歩むこともできる存在です。この「幸せなら手をたたこう」という歌は、その事実を教えてくれています。私たちは共に平和を創り出しながら生きていけるということ、それぞれの身をもって、行動で表わし、態度で示して行く歩みへと、今日もまたここから導かれて行きます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 6月16日

礼拝出席 大人5名 献金 大人5,000円 中継視聴者数10回 感謝

◎次週 2024年6月30日(日) 聖霊降臨節第7主日礼拝

招きの詞 ホセア書 14章 2-5節

聖書 ヨハネによる福音書 4章 46-54節

メッセージ 「信じて帰る」水谷憲牧師

賛美歌 21-58番 (©JASRAC)、21-518番 (©P.D.)、21-560番 (©P.D.)

礼拝の中で、6月の誕生者祝福式を行います。

◎お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」は、ホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。
- ・本日の礼拝後に、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行い、いこい食堂にお届けする予定です。どなたでもご参加ください。
- ・6月29日(土)に、和歌山県かつらぎ町にある大浦農園にて、ジャガイモの収穫のお手伝いをする「縁農」を行う予定です。雨天の場合は延期の可能性もあります。どなたでもご参加ください。詳細は牛田牧師までお問い合わせください。
- ・6月30日(日)14時から八尾教会にて、河内地区婦人会の例会・2024年度定期総会が行われます。
- ・7月6日(土)16時~7日(日)12時にかけて、関西セミナーハウスにて「開発教育セミナー第2回」として「パレスチナの平和をつくる ~今起きていることを植民地主義の視点から考えてみよう~」が開催されます(主催:公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー 関西セミナーハウス活動センター)。講師は、岡真理さん(早稲田大学文学学術院教授)です。参加費は1泊2食付きで12,000円です。申込べ切は6月30日(日)です。

申し込みは下記のウェブサイト

<https://www.academy-kansai.org/>

もしくは、電話 075-711-2117

Eメール office@academy-kansai.org

にて、お申込みください。



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
6/30	水谷憲牧師	誕生者祝福式 (河内地区婦人会 14時~、八尾教会にて)
7/7	牛田匡牧師	教会を考える会
7/14	水谷憲牧師	(部落解放祈りの日)
7/21	牛田匡牧師	

2024年度 開発教育セミナー 第2回 関西セミナーハウス活動センター 開発教育研究会  
 人権・平和・環境などの地球的課題がテーマの参加型学習。特に日本と世界のつながりが持続可能な開発(国連)に考える。

## パレスチナの平和をつくる

~今起きていることを植民地主義の視点から考えてみよう~

イスラエル軍による軍事攻撃が激化し、封鎖下のガザでジェノサイドが進行しています。しかし、国際社会はこの深刻な事態を止めることができていません。多くのメディアは、紛争は10月7日のハマスの攻撃から始まりイスラエルの侵攻はテロとの戦いだとし、問題の核心について十分に伝えていませんでした。  
 パレスチナ問題の背景には何があるのか、私たちの社会がこれまで見過ごしてきたものを直視し、平和をあきらめないために今できることをともに考えましょう。

講師: 岡真理さん (早稲田大学文学学術院教授)

日時: 2024年 7月6日(土)16:00~7日(日)12:00

場所: 関西セミナーハウス (東淀川区)

参加費: 12,000円(1泊2食付き、消費税、京都市宿泊税200円込)

\* 宿泊は、2~3名1室を基本とします。個室ご希望の場合+1000円ご負担ください。(申込の際ご希望をお知らせください)  
 \* 2日目昼食ご希望の方は申込時にご予約ください。(1,130円)  
 \* Web予約(申込フォーム)、Fax(郵便書式)、電話、メール等でお申込みください。  
 \* 申込締切: 6月30日(日)、または定員20名に達し次第。(締切日以降は、電話でお問い合わせください。)  
 \* 部分参加については事務局にお問い合わせください。  
 \* 前日以降の取り消し、ご変更は、キャンセル料がかかります。

岡真理 おかまり  
 早稲田大学文学学術院教授。パレスチナ作家ガッサーン・カナファニーの小説を通してパレスチナ問題、アラブ文学と出会う。エジプト・カイロ大学に留学、在モロッコ日本国大使館専門調査員、京都大学大学院人間・環境学研究科教授を経て現職。専門は現代アラブ文学・パレスチナ問題。  
 著書に『ガザとは何か パレスチナを知るための緊急講義』(大和書房)、『アラブ、折りとしての文学』、『ガザに地下鉄が走る日』(いづれもみすず書房)ほか。

(後援) 京都市教育委員会、京都府教育委員会、認定NPO法人開発教育協会(DEAR)